

Title	慶應義塾図書館所蔵の日本漢籍に関する研究
Sub Title	Research on Japanese editions of Chinese texts held in Keio University Library
Author	佐藤, 道生(Sato, Michio)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	慶應義塾図書館には日本漢学関係の古典籍が数多く所蔵されている。本研究は、これを網羅的に調査し、書籍一点ごとに書誌情報を示し、善本と考えられるものについては詳細な解題を作成することを目的とする。 今年度は昨年度に引き続き、清原家関係の古典籍の調査に従事した。清原家は我が国の漢学（とくに経学）を平安時代半ばから江戸時代末に至るまで牽引した家系である。その旧蔵書の多くは現在、京都大学附属図書館に清家文庫として所蔵されているが、慶應義塾図書館にもこれを補完し得る古写本・古刊本が数多く所蔵されている。図書館所蔵漢籍の中心を為すコレクションである。調査には成城大学文芸学部准教授の山田尚子氏、本塾大学院文学研究科後期博士課程学生の齋藤慎一郎氏にも参加してもらい、その成果の一部は論文として『書物学』第13巻（勉誠出版、2018年8月）及び第14巻（2018年12月）掲載の「学問の家の書物と伝授—清原家の営為を探る」と題する特集に収めた。論文題目は以下のとおり。 佐藤「清原家の学問体系と蔵書」、山田「『御成敗式目』と清原家」（以上、第13巻）、齋藤「清原家における経学の伝統とその広がり」、佐藤「吉田家旧蔵の兵書」、齋藤「清原家と中原家とをつなぐ祐安」（以上、第14巻）。 これとは別に、他の公共機関に所蔵される清原家関係の古典籍の調査にも当たった。武田科学振興財団 杏雨書屋（大阪市中央区道修町2-3-6）所蔵の『老子道德経』鎌倉後期写本は清原家の証本（家説の伝授に用いる由緒正しい写本）と認められることから、2018年10月22日及び12月17日の両日、杏雨書屋に赴き、調査を行なった。同書の書入れの中に平安時代末期の『老子』研究の痕跡を見出すことのできたことは大きな収穫であった。 また、図書調査と並行して、清原宣賢（1475 - 1550）による『詩経』の注釈書『毛詩抄』の読解に従事した。 I conducted a complete survey of those Japanese manuscripts and imprints of Chinese texts held in Keio University Library which had some connection to the Kiyohara lineage. I also the Japanese manuscript of the /Laozi/ held in Takeda Science Foundation which had some connection to the Kiyohara lineage. Furthermore, at the same time, I transcribed and analyzed the vernacular reading glosses (/kuntten/) found in manuscripts of the /Mao Odes/ produced by Kiyohara scholars.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180026

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	佐藤 道生	氏名 (英語)	Michio SATO		
研究課題 (日本語)						
慶應義塾図書館所蔵の日本漢籍に関する研究						
研究課題 (英訳)						
Research on Japanese Editions of Chinese Texts Held in Keio University Library						
1. 研究成果実績の概要						
慶應義塾図書館には日本漢学関係の古典籍が数多く所蔵されている。本研究は、これを網羅的に調査し、書籍一点ごとに書誌情報を示し、善本と考えられるものについては詳細な解題を作成することを目的とする。 今年度は昨年度に引き続き、清原家関係の古典籍の調査に従事した。清原家は我が国の漢学(とくに経学)を平安時代半ばから江戸時代末に至るまで牽引した家系である。その旧蔵書の多くは現在、京都大学附属図書館に清家文庫として所蔵されているが、慶應義塾図書館にもこれを補完し得る古写本・古刊本が数多く所蔵されている。図書館所蔵漢籍の中心を為すコレクションである。調査には成城大学文芸学部准教授の山田尚子氏、本塾大学院文学研究科後期博士課程学生の齋藤慎一郎氏にも参加してもらい、その成果の一部は論文として『書物学』第13巻(勉誠出版、2018 年 8 月)及び第14巻(2018 年 12 月)掲載の「学問の家の書物と伝授—清原家の営為を探る」と題する特集に収めた。論文題目は以下のとおり。 佐藤「清原家の学問体系と蔵書」、山田「『御成敗式目』と清原家」(以上、第13巻)、齋藤「清原家における経学の伝統とその広がり」、佐藤「吉田家旧蔵の兵書」、齋藤「清原家と中原家とをつなぐ祐安」(以上、第14巻)。 これとは別に、他の公共機関に所蔵される清原家関係の古典籍の調査にも当たった。武田科学振興財団 杏雨書屋(大阪府中央区道修町 2-3-6)所蔵の『老子道德経』鎌倉後期写本は清原家の証本(家説の伝授に用いる由緒正しい写本)と認められることから、2018 年 10 月 22 日及び 12 月 17 日の両日、杏雨書屋に赴き、調査を行なった。同書の書入れの中に平安時代末期の『老子』研究の痕跡を見出すことのできたことは大きな収穫であった。 また、図書調査と並行して、清原宣賢(1475—1550)による『詩経』の注釈書『毛詩抄』の読解に従事した。						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
I conducted a complete survey of those Japanese manuscripts and imprints of Chinese texts held in Keio University Library which had some connection to the Kiyohara lineage. I also the Japanese manuscript of the /Laozi/ held in Takeda Science Foundation which had some connection to the Kiyohara lineage. Furthermore, at the same time, I transcribed and analyzed the vernacular reading glosses (/kunten/) found in manuscripts of the /Mao Odes/ produced by Kiyohara scholars.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
佐藤道生	清原家の学問体系と蔵書	『書物学』第13巻	2018 年 8 月			
佐藤道生	吉田家旧蔵の兵書	『書物学』第14巻	2018 年 12 月			